惟喬社〔東河内村民家の南にあり、祭神親王の御霊なり、此所の生土神となす。例祭九月十六日、いにしへは神輿遷幸し、土人種々の形相を尽してわたりぬ、今断絶す。神輿は同所安楽寺に納む〕

○惟喬親王伝　文徳天皇第一の皇子にして、母公は従四位下静子紀名虎の女なり。親王小野に住給ふ故に小野宮となづく、貞観十四年に出家し給ひ法名を素覚といふ、同十五年二月廿日薨じ給ふ。〔二十六歳〕

惟喬塔〔同所長福寺にあり、十二重の石塔婆を立つ〕

山森〔西加茂川上村の艮、鴨川のかたはらにあり。森の周一町許、中に小社あり、祭神詳ならず、鴨の本宮に属す〕

二子塚〔山の森の西南田間にあり、由縁不詳〕

夫婦石〔二子塚より艮、鴨川のひがしにあり〕

須美社〔同所北の端より二町ばかり南、民家の西にあり。祭神未考。例祭は三月十日、此日紫野今宮のやすらひ花の祭は、当社において先勤て其後今宮に到るなり、即ち当所の土人これを勤るなり。一説に、此祭いにしへ高雄山法華

寺の縁により起るといふ、委は前編に見えたり。夫木集、西行法師和歌あり、高雄山あはれなりけるつとめ哉やすらひ花と鼓うつなり〕

若緑松〔同所真珠庵村の東南にあり、大なる古松これなり。其本に小祠あり、祭神木船明神なり。一説に此地いにしへ百合草若大臣の宅地なり、常に愛せる緑丸といふ鷹あり、此梢に遊びしとかや、故に名とす〕

御所内〔同所の北田の字をいふ。伝云、百合草若丸の宅地なりとぞ〕

小野道風社〔小野庄杉坂村にあり、正一位武大明神と称す、土人生土神とす。山城国に於て当宮一社にして、他に勧請ある事を聞ず。抑小野道風は天暦帝に仕て日本三跡の一人なり。日本略記曰、大内裏藻壁門の額、天徳三年五月七日木工頭小野道風書すと云々。康保元年に卒す、年七十一〕

小野神廟八詠

武神祠　龍公美

工部芳声大也。　霊祠此ニ屹然。　臨池千載業。　誰復継ニ斯賢ニ。

明王堂　平信好

寥々杉阪傍。　樹鬱明王堂。
不見塵寰色。　梵音風外長。

和香水　芥煥

香水蔵山頂。　炎旱曾不枯。
人言傷渇客。　一嗽即神蘇。

盥漱井　林義卿

道風千載久。　書比晋人賢。
欲吊墨池古。　先臨盥漱泉。

思君橋　芥元澄

一橋架峽岸。　臨眺自清奇。
恰擬半輪月。　思君在峨眉。

積翠池　高道昂

浅深不可量。　朝洗倦人掌。
木末含■荷。　翠色看来長。

長公川　大江資衡

風流野長公。　墨妙孰争雄。
欲見威神赫。　原泉滚々通。

季子山　江邨綬

諸山相伯仲。　季子最蒼然。
誰逐延陵跡。　遜家耕石田。

和香水碑銘

■沸(ヒツフツタル)霊泉。　杉阪(ノ)之巓。　維(シ)神爰(ニ)臨(メリ)。　令徳彰(レ)宣(ブ)。　載伏(シ)二旱魃(ヲ)一。

廻(チ)利(アリ)二蜿蜒(ニ)一。　千歳雖(レ)■(タリト)。　厥(ノ)沢綿綿(タリ)。　辟公斯(ニ)■(クミ)。　式(モツテツ、シミテ)粛式(モツパラニス)■。

迄(イマニイタルマテ)用(ヒテ)不(レ)竭。　万億■年。

明和庚寅孟夏望　井沢善興篆　大江資衡撰　近藤正信書